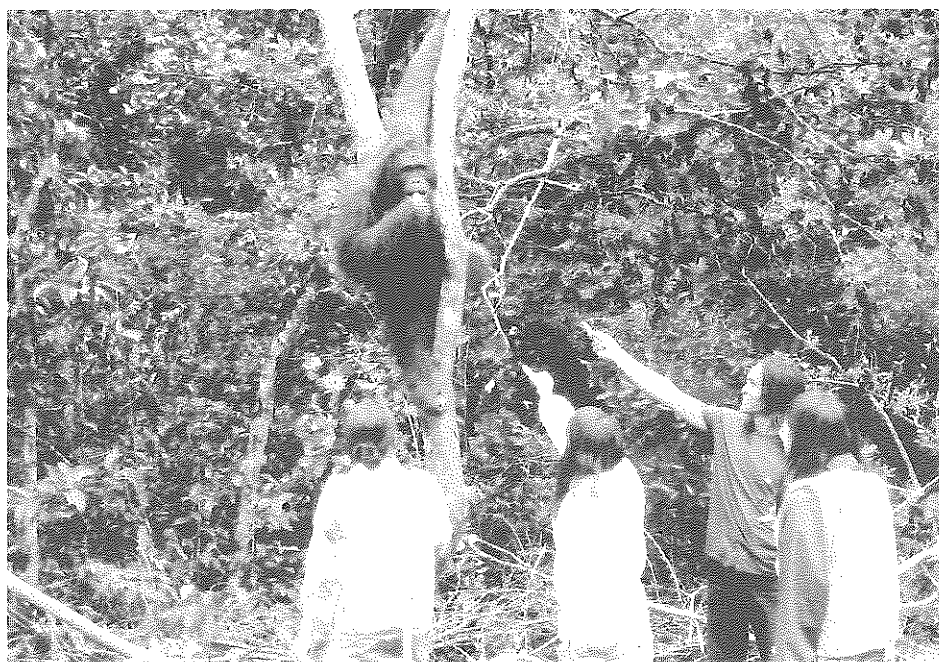


Save The Tropical Forests



森の通信

2012.7.3



▲ エコツアーに出現した羊野王のオランウータン(タンジュン・ペラレン村にて)

CONTENTS

- people (25) ショ・メンデス 3P
- Save Amazon 「Rio+20」会議 4P
- 子どもたちのメッセージとウータンのこれから 8P
石崎 雄一郎
- 森林再生への新たな挑戦
「ラマンドー 緑の回廊」石崎雄一郎 12P
- 世界の森林ニュース 15P
- 会計より 16P
- 新聞記事 18P
- ウータン決算報告 19P



*** Rio+20 会議へ*** 日本政府や各国等へ

私たちの主張 * Our Position—SAVE BORNEO! SAVE AMAZON!

私たちは世界各国が森林減少・森林劣化に対しての責任ある行動を早急に開始し、遅くとも 2020 年までにグローバルな森林の損失を止めることを求めます。

* 具体的には特に 2 つを求めます。

1) 違法伐採の対策

日本政府をはじめ、違法伐採による木材の輸入について、法的拘束力を持つ対策を早急に具体化すべきである。

2) 新規の森林開発を抑制し、既存の森林を持続的な経営へ

これ以上の新規の伐採や資源探掘コンセッション、プランテーション拡大を抑制して既存の森林を一刻も早く持続可能な経営状態にする。

現地連絡*石崎(ウータン)、岸田(AseedJapan)

提案賛同団体* JATAN, FoEJapan, Aseed Japan, HUTAN Group,

FNPF(Friends of National Parks Foundation/インドネシア)

.....

* 石崎君、Aseed 岸田さん、皆様、リオで頑張って「Earth Negotiation」等 News 送付する。(西岡)

* FNPF・事務局長 Bayu 氏・14 日の提案 OK。FNPF もメッセージ仲間に加えてほしいと。(石崎)

* 細貝さん(ウータン新メンバー)・英訳してみました。チェックしておかしなところ直していただければ幸いです。いよいよ出発ですね、気をつけてください。(8/13)

* FoEJapan 三柴さん・時間の無いところでみなさまの頑張りが素晴らしい! ショートバージョンの英文は代表理事のランダル氏にもチェックしてもらいました。(6/15)

* JATAN 原田さん・成功を祈っています。(6/14)

* Aseed 岸田さん・昨日から貧困、食糧、生物多様性、森林とリオで話題がたくさんです(6/15)

* ラミン調査会・奥村さん・多少の誤字、脱字等、英文の校正をしました。現地で気をつけて。(6/15)

【ウータン活動報告】

2012.4.10 『ウータン通信 105 号』発送

4.26-5.8 石崎、FNPF 等とタンジュン・プテイン公園、ラマンガウ保護区の植林調査等と
ボゴールで Wetlands Inter Indonesia や Telapak 等と打合せ

5.8 石崎、リオ+20 会議参加 OK で、ウータンから提案を検討

5.18 春日、石崎、西岡で Rio+20 へ第 1 回目の提案文検討

5.30 ウータン、「Rio+20 連絡会」へ森林問題の提案文を送付

6.4-5 石崎、Rio+20 連絡会、集会等に参加。Aseed の岸田さん等と Rio+20 へ提案検討に

6.14 Rio+20 会議へ最終英文ほぼ作成(上の Our Position 文は日本語のダイジェスト版)

People(25) Save! the World's Forests

—1988年、牧場主の配下に射殺された、アマゾンを守るゴム労働者組織を結成した
亡き Chico Mendes(シコ・メンデス)氏とその妻・イルザマールさん—



1989年5月アマゾン・アクレ州シャプリのシコ・メンデス記念館で 写真・文 by Nishioka

1989年、初めてのアマゾン・ブラジル。森林破壊がなぜ広範にされているのかと、1992年、リオで地球サミットが開催されるが NGO はみんな知らないので現状把握の長旅が始まる。リオからアマゾンを跨ぎベレンへ。埋蔵世界一のカラジヤス鉄鉱山、インディオを強制移住させて造ったツクルイダムの確認、牧場開発の空中からの確認後、アクレ州首都リオ・ブランコから一路シャプリへ。それは前年シコ・メンデス氏が牧場主に殺されたから。

「アマゾン、ブラジルは物騒な所よ。金があれば何でも片付く。1970年代から父から引き継いだ森林に囲まれたゴム農園の採取をシコたちがしていました。ところがどんどん森林が壊され、彼はゴム採取労働者を組織しました。破壊される現場では座り込み何度も破壊を止めました。シコはインディオ達とも森林保全で共闘を進めていて、牧場主たちがこの共闘を怖がり、シコの暗殺を何度も画策しました。穏やかな夕方、裏から暗殺者が来て、銃で彼は撃ち殺されました。大金持ちはブラジルで働かない。何もしなくても金が転がり込む。貧乏人はずっと貧乏人です。だからブラジルは変わらない。インディオや入植して森を守る人たちが迫害されているの」と、元妻のイルザマール・メンデスさんは語る。今もそうなのか。これではアマゾンの保全は遠い。

Rio+20 で『Save!アマゾン』を『地球の肺』から「CO2 排出源に変わる恐れ」

BR364 号線から森林破壊 右)ロンドニア州で牧場へ転換する為の野焼き/1989 年撮影 by Nishioka

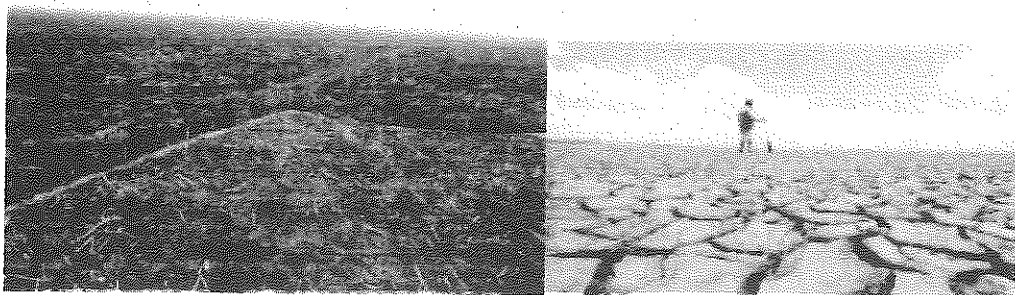


アマゾンの熱帯雨林は全世界の熱帯雨林の 30%を占め、二酸化炭素を取り込み、酸素を作り出す「地球の肺」の役割を果たしてきた。過去 20 年間、毎年四国と同じ面積の 1 万 7 千 km² が消失し続けている。

1960 年代より当時のブラジル軍事政権は、アマゾン開発に「土地無き民に土地を」のスローガンで、原生林を伐採して全長 5,500km に及ぶアマゾン横断道路を建設した。世界一の埋蔵量のカラジャス鉄鉱山の開発に、インディオを無理に移住させてツクルイダムを造り、電力を供給した。都市に住む貧しい人をアマゾンへの入植を積極的に勧め、入植者は農地を開くために野焼きし養分がなくなった土地を放棄した。一方牧場開発を助け、放棄した土地は牧場として開発された。熱帯林は道路沿いから次第に消失した。

2000-2005 年のアマゾンの破壊は、70%が牧場開発によるものだ。そして現在、特に大規模な大豆生産農園も大問題となっている。だが今回の Rio+20 サミットは、森林大破壊の牧場開発、大豆の巨大開発も議案「Fam」の中で論議する内容がない。「Fam」のグリーン化として、開発推進されたら大問題なのだ。

英国とブラジルの国際研究チームは「2011 年 2 月、昨年の南米アマゾン熱帯雨林地帯の干ばつが及ぼした環境被害は、森林破壊が最大の 2005 年以上に深刻で、米国の 1 年間の CO₂ の 50 億トン以上を放出」との調査論文を米科学誌サイエンスに発表。同論文では、「気候変動で 2005 年や 2010 年のように深刻な干ばつが今後頻発する。世界最大のアマゾン熱帯雨林は二酸化炭素 (CO₂) を吸収するどころか逆に放出し、世界の温暖化を加速しかねない」と警告。世界の森林は成長につれて CO₂ を吸収し、地球を冷やす効果があるが、森林が枯れて腐ると逆に CO₂ を放出する。「CO₂ を例年 15 億トン吸収しているアマゾン熱帯林は枯れたり朽ち果てたりし、向こう何年かで 54 億トンの CO₂ を放出と予想される」と。また「2005 年に死に絶えた森林はアマゾン南西部だけに集中したのに対し、2010 年は 3 つの広い地域で森林が死に絶えた」と他の科学者が報告し、アマゾンの森林破壊を訴えている。Rio+20 含めて今からアマゾンで、どれだけ開発計画をやめ、牧場・大豆・ダム開発・違法伐採を阻止できるかにかかっている。Save! Amazon!



Save Amazon ② Rio+20へのメッセージ②...なぜ【森林のアジェンダ】が本会議にないのか!

(西岡良夫)

リオ+20 サミットに石崎君が招聘やビザの OK が出て、行ける見通しで、提案文書を出すことを決めた。急遽骨子を春日さんが書き、春日、石崎、西岡が集まり、原案を書く。その後 300 字となり再度集い、原案問題は他団体から提出で、森林問題を出さねばならない。リオ+20 NGO 連絡会に石崎君が提案を送付した。

---- **リオ+20 NGO 連絡会より** 『Rio+20 へのメッセージ』(要約集の概要) 2012/06/01-----

1. 貧困層・脆弱層に十分配慮したグリーン経済のための税財政/貧困メカニズム改革・SDGs(*)を
 (*)SDGs=持続可能な開発の目標 [提案:「環境・持続社会」研究センター(JACSES)]
 2. グリーンエコノミー now! 生命の持続可能性と資本の持続可能性に対話と調和を!
 [提案:JACSES, A SEED JAPAN]
 3. 人類のための公正で安全な地球を実現するために [提案:オックスファム・ジャパン]
 4. いのちの共生を未来へ! 生物多様性の保全に向けあらゆる角度からの取組みの推進を
 [提案:国連生物多様性の10年市民ネットワーク]
 5. 生態系のレジリエンスを活用した田んぼの復活を~東日本大震災の津波からの復興
 [提案:田んぼ、賛同:ネットワーク「地球村」、サステナブルリユージョズ]
 6. 人づくりを核にした持続可能な地域づくりの推進を!
 [提案:持続可能な開発のための教育10年推進会議]
 7. 原案に関する日本の ODA の積極的中立化の促進 [提案:国際協力 NGO センター (JANIC)]
 8. 福島を経験を世界に伝え、再生可能エネルギーを機軸とした社会づくりを [提案:ピースポート]
 9. 大規模開発による熱帯林破壊をやめ、先住民の暮らしに学ぼう! SAVE アマゾン! SAVE ボルネオ!
 [提案:ウータン・森と生活を考える会]
- ①森林、生態系、大規模プランテーション開発について:—ボルネオではアブラヤシ・プランテーションやダム開発によって、熱帯林が減少し、オランウータンなどが絶滅の危機にあります。アマゾンでも、牛肉のための牧場転換、ダム開発、大豆プランテーション開発などで熱帯林が減少しています。これらは、生物多様性と気候変動にも重大な影響を及ぼします。COP10 名古屋議定書が発行され、日本は生物多様性のリーダー的役割を担い、未来へ向けて生物多様性を維持し、人類が幸せに暮らせる道を探ることが必要です。
- ②開発と先住民の権利について:—開発により、生きる場所を奪われた先住民がいます。彼らは昔から、森と共に自給自足の平和で持続可能な生活をしてきました。私たちは、彼らに学び、大規模開発、大量生産・大量エネルギー消費の道を改める必要があります。
10. 性別に公正な持続可能な社会を! & ジェンダー平等をもたらすグリーン経済を! [提案:JAWW]
 11. 未来世代の政策決定プロセス参加を [提案:Climate Youth Japan, エコ・リーグ]

Rio+20 サミットの主要テーマ【Green・エコノミー】の Goal の1つが「エコ・シテイ」、「Green な仕事」と企業よりのアジェンダで、森林問題に絞ろうと。時間が無い中で石崎君がまとめて提案を事務局に送付。森林問題ではスマトラ、ロシアも大きな問題だが、アマゾンの問題から対比し、ボルネオとアマゾンにした。

20年 Rio サミットでマレーシア・マハティール首相は「森林伐採が問題視されるが、私たちの国は貧しく、木材を売らなければ生きていけない。雨の貧困を作り出したのは北の責任。今さら木材伐採を制限せよというのは滅茶苦茶。資源をどうするかは主権国家の権利」と。それでリオ・サミットは森林の議定書が葬られた。なぜか今会議で【森林のアジェンダ(討議案)】もない。強く森林保護を盛り込むことだ、Save! Amazon と。

※6/17 インフォームル会議で森林問題は議案が4つにふえ、一歩前進。 (選報)

Save!アマゾン③ーブラジルの「森林法改正」とアマゾンの危機

ブラジルの森林法は、もともと国内の森林所有者に開発行為を制限するため、1965年に作られた法律だ。この規制を緩和させる措置を盛り込んだ修正案が、現在ブラジルで検討されており、これが成立することにより、森林保全への悪影響が懸念されている。

ブラジルの「森林法」は、これまでも決して厳守されてきたものではない。従来の法では、保全すべき森林に土地を所有している者に対し、面積の80%以上を森林として維持することを求めており、これが開発を規制する上で一定の役割を担ってきた。しかし、今回の修正案では、この森林の維持率が50%まで引き下げられており、保全につながる規制が実質的に緩められることになる。

この法律の変更が実施されると、今後新たに失われる可能性のある森林の広さは、アマゾンをはじめ、大西洋沿岸林などブラジル国内の森林79万平方キロ(およそ日本の面積の2倍弱)に及ぶ。さらに、森林の回復に外来種の樹種を用いることが可能になるなど、生物多様性保全の観点からも問題が指摘される。



© João Gonçalves / WWF-Brazil



温暖化防止を後退させ、アマゾンの森林が枯れ死・火災の元に

また、このブラジルにおける森林の危機は、地球温暖化防止の観点からも懸念すべき、大きな問題だ。現在、各国で起きている森林破壊は、温暖化の主要な原因の一つである、二酸化炭素の世界の総排出量のおよそ20%を占めており、今後もその影響が心配されている。

ブラジルのアマゾンの熱帯雨林も、無論、二酸化炭素の吸収源として、また、気候を安定させる環境として、大きな役割を果たしている。だが今回、ブラジルで法律が変更され、森林の大規模な破壊が進むと、これによって排出される可能性のある二酸化炭素の量は、実に290億トンにのぼると見られている。

この結果として、ブラジル政府は、コペンハーゲン合意において自らが掲げた温室効果ガスの削減目標が達成できなくばかりでなく、森林の喪失による水害や異常気象による影響を被る。また、影響はブラジル一国にとどまらず、周辺国や温暖化の深刻な被害をすでに受けている国々にまで広く及ぶことになる。

2012年は、世界中を環境問題中心とした「地球サミット(国連環境開発会議)」から20年目を迎える。当会から石崎君参加のRio+20会議は、地球サミットに立ち戻ることだ。(西岡)

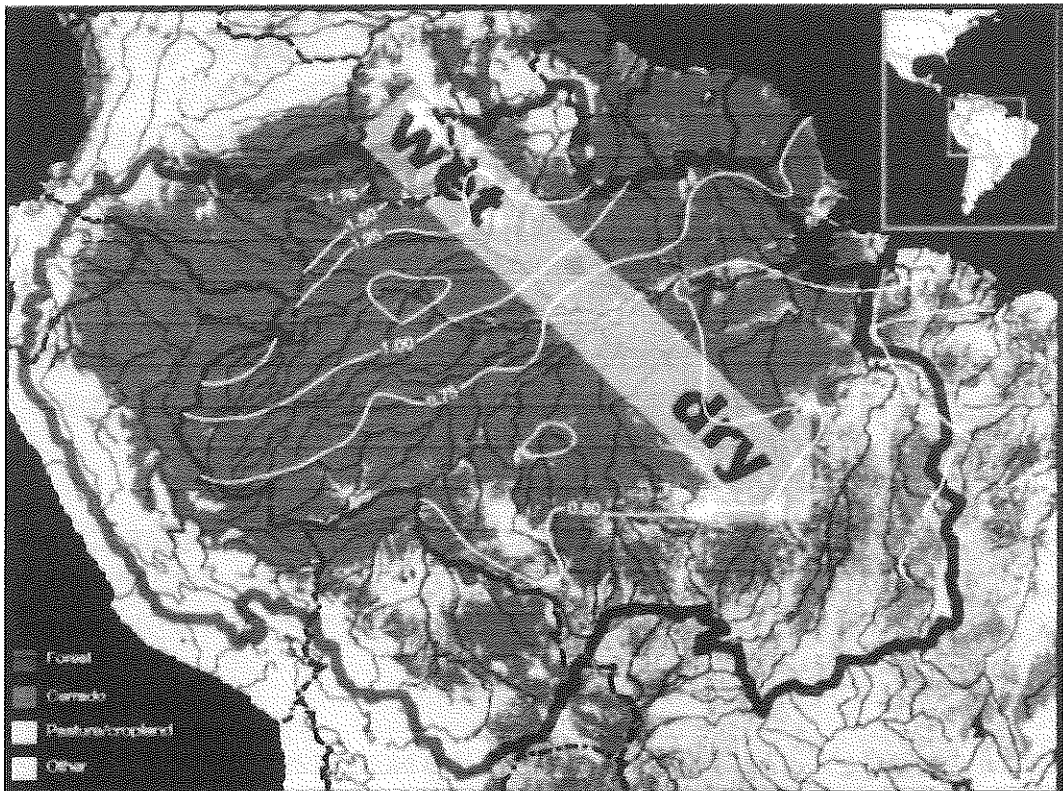
Save! アマゾン ④

8割の森が危ないアマゾン！これは世界の危機だ！

*「気候変動に起因し、森林は 85%減」と科学者たちは言う

科学者は、気候変動で4℃の上昇がアマゾンの熱帯雨林の 85%を殺すと言う。また控えめな温度の上昇の推測でも 100 年以内に森林の 20~40%の損失になると。

* 森林破壊、気候変動がアマゾンの熱帯林の生態系の回復を脅かす Mongabay.com より 2012 年 1 月 19 日



アマゾン川流域全体の気候のあらましー アマゾン川流域は太い青い線の区画にある。2011年の3ヶ月間で乾燥し、平均降水量は、4つの土地被覆クラスに覆われ、区分される。矢印は、セラード(サバンナ/森林)の植生を含む南東部の北西では継続的に湿潤な状態から長い顕著な乾燥した季節のトレンドになることを強調している。自然条件とキャプション・テキストのイメージにつきダビッドソンから抜粋。(2011)

子どもたちのメッセージとウータンのこれから

石崎 雄一郎



2012年5月に、タンジュンブティン国立公園の外側に棲息するオランウータンの聞き取りを行った。ここ数年、セコニャール川の北側、すなわち国立公園の外側で親子連れのオランウータンを数回みかけている。違法伐採が終わり、オランウータンが戻ってきた兆候かと期待したが、結果是最悪なものだった。バスキによるとこの5ヶ月、国立公園外でオランウータンは見えていない。おそらく、プランテーション会社の人間に殺されたと見ている。なぜなら3ヶ月前にFNPFのアルバインとアドゥが、プランテーションの運河から流れてきたとみられるオランウータンの死体を川で発見したからだ。

かつてウータンでは、インドネシア NGO と共に違法伐採問題に取り組んできて一定の成果をあげた。現在、国立公園の中にあるスガイブルクチルなどではかつての違法伐採は無く、国立公園内ではたしかにオランウータンは戻ってきている。

バスキは言う。たしかに違法伐採はほとんど無くなった。しかし、問題はより深刻になっている。アブラヤシプランテーションなどの開発が認められる国立公園外では、どんどん森が無くなっており、オランウータンはほとんど生き残れない状況だ。ウータンはパームオイルとマイニング（砂金採取）にフォーカスすべきだ、と。

パームオイルの問題はどんどん拡大しており、ほとんどの NGO にとっても大きな 이슈だ。RSPO（持続可能なパームオイルのための円卓会議）という認証機関は出来たものの、バスキによるとRSPOを取得していても遵守せずに紛争を起こしている企業がたくさんある。現に、セコニャール川沿いのプランテーション会社（BW Plantations）もRSPOを取得している。バスキはRSPOを企業のPRのためだけのCSRとして信用していない。

また、ある大きな NGO が、BCL やシナルマスや APP などの大きなプランテーション、製紙会社から援助を受けていることに対しても理解ができないという。

タンジュンハラパン村では、ここ数年、たびたびプランテーション企業に対してデモを起こしている。プランテーションが村の土地境界線へ入ってきているという理由だ。最近のデモにはエコツーリズムで訪れたオランダ人も参加し、インドネシア語と一緒に抗議してくれたらしい。



また、僕が訪れた 2012 年 5 月にはプランテーションの従業員によるデモが行われていた。待遇の悪さに対するデモで、計画にあたってバスキにアドバイスを求めてきたらしい。

FNPF と村人は、森とプランテーションの境にあるジュルンブンというところでアグロフォレストリー（森林農法）などの実践を行っており、ウータンはプランテーションの見張り小屋の建設を依頼している。まさにオランウータンをはじめとした野生生物の生死をかけたプロジェクトがここでは進行している。



タンジュンハラパン村の村人と FNPF は、デモなどの抗議活動だけではなく、子どもに森の大切さを教える環境教育も実践している。タンジュンプティン国立公園の外側には、タンジュンハラパン村以外に2つの村があり、ひとつは村人全員がプランテーションで働いている Badaun 村（タンジュンハラパン村の

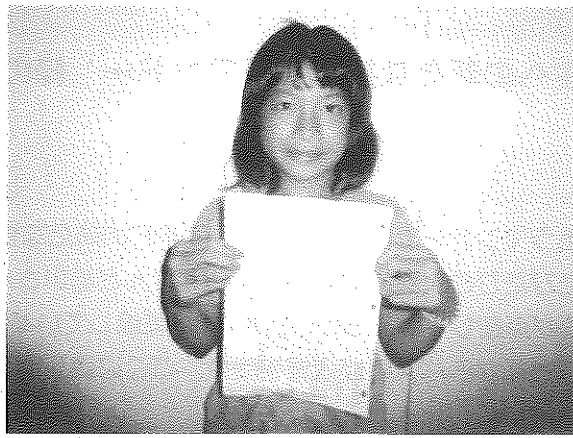
中学生はこの村の中学校へ通っている)と多くが働いている Sekorang 村がある。数ヶ月前には、Sekorang 村からタンジュンハラパン村へ小学生がやってきて、一緒に環境教育をしたという。この村の子どもたちの親の多くはプランテーションで働いているはずだが、今では子どもたち全員、森が大好きでプランテーションが嫌いになっている(!)とバスキはうれしそうに言っていた・



写真を見ると、観たことのある光景が。これはウータンメンバー高阪さんが、かつて青年海外協力隊の隊員として環境教育の実践プロジェクトへ参加した時に考えたワークショップだ。新聞紙を森に見立てて、そこに動物に扮した子どもたちが乗っかる。プランテーションの拡大とともに森は減っていき、子どもたちは足場(棲家)を失っていく・・・3年前に彼女がFNPFのメンバーに教え、一緒にやったワークショップをいまでも活用しているという知らせは感無量であった。

聖賢小学校でゲストティーチャーとして話をした時に、児童がタンジュンハラパン村の子どもたちに「パームオイルと私たちの生活」をテーマでお手紙をくれた。アドウが村の子どもたちをFNPFが村人から購入した家(FNPFはここを子どもたちの活動拠点として自由に壁に絵を描いて、使わせようとしている。数ヶ月後どうになっているのか想像もつかないが・・・)に集めてくれ、僕からそのメッセージを紹介した。テーマが少し難しく、やや伝わりづらい気もしたが、その晩に同じ場所に集まり、子どもたちが日本の子どもたちに向けてお返事を書いてくれた。そのうちのひとつを紹介したい。





「Desa sungai sekonyer*」 MELLY SUSI LOWATI (*村の正式名称)

Hallo, teman-teman nama saya Melly.

Saya ingin menceritakan tentang kelapa sawit. Orang-orang menebang pohon karena untuk menanam kelapa sawit. Akibatnya desa menjadi banjir, tanah menjadi long sor dan hewan-hewan hampir punah. Desa sungai sekonyer menjadi banjir banjir karena orang-orang suka menanam kelapa sawit. Orang utan hampir punah dan orang luar tidak bisa melihat orang utan.

こんにちは、私の友人は私の名前は メリーです。私は、パーム油についてお話したいと思いません。人々は、パーム油を採るためのアブラヤシを植えるために木を切り倒しました。また、セコニャール川が氾濫し、村が浸水し、土壌浸食が起きました。

その結果、動物が絶滅しそうで、いまではオランウータンを見ることが少なくなりました。

メリーは父親がプランテーションで働いている。

子どもは現実を写す鏡だ。時には大人たちよりも真実を語ってくれる。

アドゥが笑いながら言った。「ジャカルタの子どもがこの村に来てサバイバルできないんじゃないかな」。「学校から帰ると、水を汲んで洗濯をする。その後、牛のえさを刈りに行く。みんな働き者だ。」。僕が「たぶん、日本だってそうだったはずだ。おばあちゃんやおじいちゃんの時代は」というとバスキがこう返した。「たぶんそうだろう。それは知っている。おしんで観たから」。インドネシア人はみんなおしんの大ファンなのだ。

僕はおしんの時代から日本が進歩したとはきくが、いったい進歩が何を指すのかさっぱりわからない。森と伝統的な暮らしを破壊することが人間の進歩なのか。村の子どもは、あまり衛生的でなく、安全といえない場所で遊びまわっているが、危険な目にあった話は聞かない。最近、日本では交通事故のニュースをよく聞く。人の手に負えないマシンは時に大惨事を引き起こす。子どもたちが平和に暮らせる社会は一つの指針かもしれない。

日本の子どもたちとこの村の子どもたちが幸せに暮らせる社会をめざしてウータンも活動していかななくてははいけない。

森林再生への新たな挑戦 ラマンドー 緑の回廊

石崎 雄一郎

僕にとって1年ぶりに訪れるラマンドーで動きがあった。FNPFの新たな挑戦の土地、ラマンドー・ネイチャー・レシープは、たびたびの火事に見舞われ（西岡さんと前川さんが8月に訪れた時にまさに火事がおきた）小さい森が点在しているものの、大半は乾燥していくつかの草以外は生えない荒廃した土地である。2年ほど前からバスキが依頼を受け、ここに森を復活させようとしている。



バスキは、小さな森を繋いで、グリーンコリドー（緑の回廊）を作る計画をした。回廊は幅が30Mで2kmの長さに苗を3Mおきに植えていくというものだ。この回廊の役割の一つは、動物が移動できるようになるということ。もう一つは、ここをグリーンベルト、すなわち火事が広がるのを守るようにしたい。植える木は9種類で、特に乾燥に強い3種を中心に植える。タンジュンプティンと違い、この乾燥した土地で育つにはそれに適した苗を選ばなくてはならない。

植え方は、まずロープと木で囲った3Mおきに苗をおいていき、そこに鍬で小さい穴をほる。そこに苗を置き、周りの草の生えている部分の黒土を掘り、かぶせる。草の生えている土は栄養がある可能性が高く、自然の肥料の役割がある。苗の周りが壕になるように彫ることが望ましい。ここに水がたまるからだ。一番の課題は火事だ。消火器のようなものが欲しいがお金がかかる。また豚がえさとなる小動物を探す際に土を掘り起こしてしまうという問題があり、いくつかの苗は被害にあっていた。



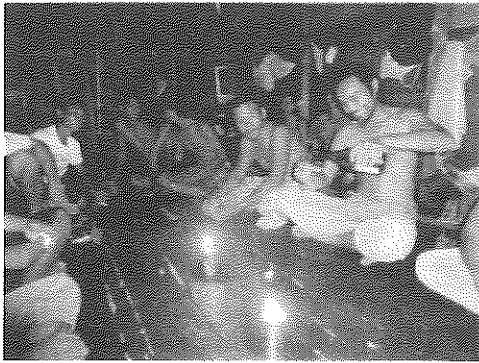
さて、大きな動きのもう一つは、僕が訪れた時に、この地区のそばにあるスンガイパサー村（Sungai.Paser・砂の意味）の若者が10人ほど植林に参加していたことだ。パサー村は、ハラパン村の10倍の1000家族ほどが住んでいる比較的大きな村で、漁業が中心。プランテーションは（まだ）ない。ジョークが好きな明るい村人らしく、僕が訪れた時もわいわい楽しそうにやっていた。このプロジェクトに興味があるようだ。



3日前から約2週間ほど予定で、FNPFは彼らに1日50,000RPを支払っている。彼らの多くは漁民だが、魚を育てている時期で時間があるという。他のNGOが支払う額より安く、彼らの月収と比較してもいい額とはいえないが、プロジェクトそのものを楽しんでいる印象がある。



しかし・・・「お金はよい手段ではない」とバスキはいう。お金でプロジェクトを動かそうとするのは将来における大きな間違いである。ほとんどのNGOが、森林再生に時には10億ルピー（約1千万円）もの多額のお金を使うが、うまくいかない。ほとんどは、職員のサラリーに消えていく。FNPFは村人に対してお金をかける。彼らのアクティビティを後押しする。バスキは、将来はハラパン村のように彼ら自身にグループを作ってほしい。そして苗を売ったり、植林をすることが収入につながり、彼ら自身がそれをマネージメントすることが理想である。



僕にはそれが可能だと思う。彼らは非常に植林に熱心であり、話し合い解決する能力を持っている。和気藹々と、だが勤勉に植林を続けている。タンジュンハラパン村から遠いこの土地に村人が来ることはコストもかかり、苗を運ぶこともできない。はじめから、この土地を森に再生させるには、となりの村人がキーになると思っていたが、早くもバスキはそのきっかけをつくっていたからびっくりだ。

FNPFは今年、BOING社から3年間のケアを条件に400万ルピーの植林用のドネーションを得た。また、オーストラリアのTarungaZOOの寄付で、コンポストマシーン、トラクター、ビデオカメラ等を買うことができた。SIEES、日本のEco-future-fundからの援助は使いやすく有益だという。バスキは言う、使える資金が増えた今、必要なのは、プログレッシブ（前進）であると。

村人の関わりとプログレッシブが必要となった時、ウータンが作ろうとしている植林冊子のことがある。新しく村人に長期的に関わってもらおう動機付けとして、アレックスのイラストでの植林冊子はとても有効だろうと、バスキも同意した。動機付けといえば、ウータンメンバーやエコツアーがたびたびこの土地を訪れ一緒に村人やFNPFと植林をすることは非常にいい影響を与える。他のファンドにはないウータンならではの関わり方を実践していきたい。

ラマンドーにパサール村の人々が常駐し、植林を続ける。ウータンメンバーやエコツアーやタンジュンハラパン村の植林グループがいくのも面白いだろう。荒廃したこの土地にまた一つの夢が生まれた。ここが10年後、20年後、豊かな森になっていることを想像するととても楽しい。想像は夢を生む。だが、それは夢ではなく、おそらく現実となるであろう。

希望の村の森づくり～出会おう！植えよう！

【2012年8月25日～9月1日】

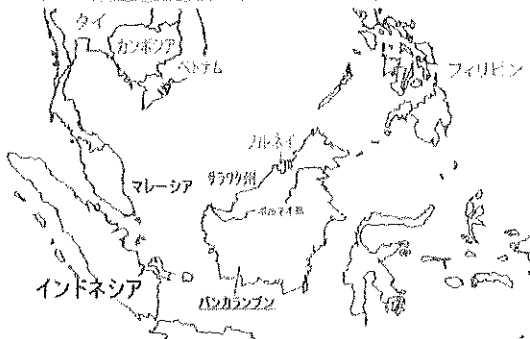
～苗を植えに行くプロジェクト～

赤道直下、オランウータンも棲む、豊かな熱帯林に覆われた野生生物の宝庫、ボルネオ島。近年、商業伐採や、ポテトチップスなどにも使われるパーム油の原料アブラヤシの大規模なプランテーション開発により、森がどんどん減っています。そんな中、苗を育て、木を植え、森を再生することを生業にしている人たちがいます。実は、彼らも7年ほど前までは森を伐採していました。

ボルネオ・エコツアー



インドネシアのNGO、FNPFのサポートのもと、彼らは、今まで当たり前にあった「森」について改めて考え、祖先から受け継いだ伝統と知恵をいかして、森と共に生きる道を選びました。そして、その思いを子どもたちへ受け継ぐため、毎月、村全体で環境教育を行っています。木を切る人から木を植える人へ、希望の苗作りをしている人たちに会いません。



8/25 土	関西空港→ジャカルタ	午前：関西空港集合 ＜ジャカルタ泊＞
8/26 日	ジャカルタ →バンカランプン →タンジュンハラバン村 (4泊5日)	・原生の種による苗作り ・オランウータンの棲む森を歩く ・子どもたちと環境教育 ・現地NGOスタッフとの交流 ・アブラヤシプランテーション訪問 ・植林体験 など ＜ホームステイ＞
8/30 木	タンジュンハラバン村 →バンカランプン→ジャカルタ	ボゴールへ移動 ＜ボゴール泊＞
8/31 金	ボゴール→ジャカルタ→	・NGO訪問・ボゴール観光 ジャカルタ経由関西へ
9/1 土	→関西空港(早朝)	早朝着、解散

■ 企画／呼びかけ ウータン・森と生活を考える会

■ 2012年8月25日(土)～9月1日(土)早朝着

※関西空港発着。他空港発着についてはお問合せください

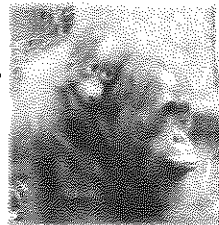
■ 旅行代金：お問合せ / ¥173,000

※関空使用料2,650円、航空保険料約1,600円、燃油特別付加運賃約29,460円、現地空港税、インドネシア査証代は別途必要(11/20現在。為替レートや原油価格によって変動することがあります)

■ 最少催行人員6名 ※早めのお申込をお願いします

■ 添乗員：同行しません

■ 現地に詳しいスタッフが関西空港からご案内いたします
※お渡しする旅行条件説明書面をご確認のうえお申込ください



■ ウータン・森と生活を考える会
世界中で激減する森林、特に原生林の保護と、そこに住む先住民族の権利を守る活動です。日本の木材消費により、東南アジア、ソロモン諸島、アフリカなどで資源が枯渇しつつあります。またカナダ、オーストラリアの原生林は紙の材料として日本で多量に消費されます。世界の森を守りましょう！

■ お申込み・お問い合わせ先

株式会社マイチケット

エアーワールド株式会社(株)旅行部・日本旅行業協会(JATA)の協力会員
員番号知照番号旅行代理店第142号(株)旅行業務取扱員各田原由紀子
〒660-0084 尼崎市武庫川町4-27-1 FAX 06-4869-5777

06-4869-3444

www.myticket.jp

E-Mail: info@myticket.jp

エアーワールド株式会社

【ベトナムもグリーン成長戦略に】

ベトナムはグリーン成長を練り、案を6月に政府に提出予定。気候変動の取組みや国の成長モデルの構築等を目標とし、経済的競争力、雇用を拡大し、天然資源の効率利用を行うと。【フェアウッドNews】

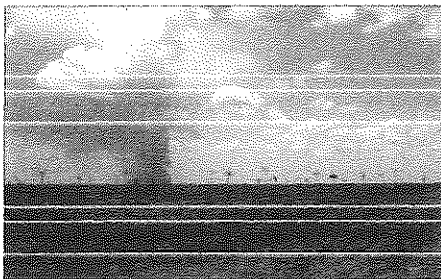
【カンボジア警官が環境活動家を射殺】

4月私企業の違法伐採を撮影の活動家が、タイ国境に隣接のカンボジア・コッコン州の森で警官により射殺された。同氏は軍幹部の関与も指摘される違法伐採への反対運動で知られ、フン・セン首相も違法伐採に絡み、当日地元紙カンボジア・デイリーの記者と伐採現場を訪れたと。【4/26アノンペンポスト】

【インドネシア、APP等に損害賠償請求】

インドネシア環境省は、スマトラ島リアウの違法伐採で14のパルプ企業を訴え、2.2億ドルの損害賠償請求の準備を行うと。14企業の内12社はAsia Pulp & Paper (APP)とAPRILの関連企業。これら2社は熱帯林破壊と絶滅危惧種のトラ、ゾウ、オランウータンの生息地の泥炭地破壊を行い、国際的にも非難されている。またインドネシア政府は、5月21日、パーム油開発の中心の1つのスマトラ・アチェで、「泥炭地を保全する」と公表。アチェ県前知事は、パーム油企業に泥炭地開発を許可し、禁止を撤回していた。これに環境団体が法的行動をし、警察や政治団体の調査もされた結果。

(5/26ロイター、5月Jakartaポスト、Tempo)



(アマゾン・ロンドニア・牧場開発で森破壊)

【リオ+20会議、森林議案1つのみ】

6月20-22日、ブラジルのリオデジャネイロで1992年から20年目の国際会議開催。20年前会議では森林、気候変動、生物多様性問題中心の会議も、今回「Green経済」等企业への中心議案で森林問題議案100以上案件の1つのみで、ウータン等が緊急提案。

【Amazon破壊減る、2020年ゼロ目標へ】

ブラジルは2006年から2010年間に、アマゾン森林減少率を前の5年間より約半分に。パラ州知事は5月に「2020年までにゼロにアマゾンの森林伐採を減らすことができる」と。スコール世界フォーラム、社会起業家の主要な会議の合間にmongabay.comに語る。

【アマゾン、地球の肺からCO2排出源か?】

地球温暖化の防波堤と考えられたアマゾンが伐採、牧場開発等で破壊の結果、CO2大排出源に変わる可能性を米科学者チームが1月12日AFP誌に報道。論文は、「アマゾン一帯のバイオマスに閉じ込めてるCO2(二酸化炭素)は1千億トンと驚く量で、世界の化石燃料によるCO2排出の10年分。今後、地球温暖化でアマゾンの森林が枯死、火災等でCO2が大気中に排出の恐れが大きい」と同チームは警告。排出を防いだCO2の量は22億トンに及ぶ。今ブラジルで進められている【森林法改正】の規制緩和はこれまでの違法行為を不問に付すもので、ここ数年ブラジルが森林減少を実現した保全の成果を無駄にしてしまう。(1-5AFP、ロイター等)

【アマゾン破壊の最大原因は牧場開発】

アマゾンの森林破壊の原因の7割が牧場開発。ブラジル大手畜産業者は2009年10月、森林破壊ゼロ合意に署名も実施進行せず。またアマゾン中部・アルタミラのペロモンテ・ダム開発は世界3位の大開発で、2000人の先住民の強制移住と40万haの森林破壊が進むとグリーン・ピースが指摘。(3-5月AFP)

<会計より>

井下祥子

希望の村の苗木づくりのためのカンパは引き続き募集しております。よろしく
お願いいたします。

年会費は4000円です。よろしくお願いいたします。

会費カンパの振込用紙をもって領収に替えさせていただきます。
領収書の必要な方はお手数ですが、振込用紙にご記入ください。

未使用の切手をお送りいただけないでしょうか？

大変厚かましいお願いですが、引き出しに眠っている切手がありましたら、
いただけないでしょうか？

ウータンの活動費のかなりの部分を通信費がしめています。基金をいただい
ても、家賃や会報印刷、郵送料等、運営費は自前です。また、今回基金が満額
出なかったため、現地調査費などかなり出費がありました。

事務局も大いに自腹を切ってはいますが、限界があり、少しでも経費節減し
て、息の長い活動をとっております。

(リオの環境会議に、若手のイッシーこと石崎君が参加します。もちろん自費
で。NGOの声明も出します。報告は次に！)

.....

<会費・カンパ等をいただいた方> (敬称略) (2012.3 ~2012.6.14)

市井晴也 井上真 井原美鈴 上田廣子 太田敏一 奥村知亜子 トム・エス
キルセン 岡庭泉 春日直樹 金沢謙太郎 木村久吉 久世濃子 櫻井光雄
澤井敏郎 田岡めぐみ 田中順子 田邊美穂子 地球の友・金沢(三國)恒成
和子 永田良昭 西岡良夫 藤井克正 前川有 宮内真津 湯川れい子
由良行基周 米沢興治 井下祥子

<おたよりから>

*小生も90才に到り・・・あなたがたの活動をもっとも感銘こめて、ウータ
ンから教知れぬヒューマンズムを受けてきました。・・・バックナンバーは捨て難
く、東ねてあります。

*拙著『熱帯雨林のポリティカルエコロジー』を寄贈いたします。

(金澤謙太郎様、ありがとうございます。ウータンも関わってきた、サラワク先住民の森が失われていく過程や守るための試みも書かれています)

- * 前略 いつも森の通信「ウータン」お送りくださりありがとうございます。森を愛する主人にとっても読ませていただくのが楽しみだったようです。中村義明は9月3日台風12号の増水による村の簡易水道のホースを守る活動に従事中、事故にて川に転落し帰らぬ人となりました。年会費、最後になりますがお封させていただきます。

(生前は、熊野の本宮大社から吉野山までの古道奥道を、6時間かけてパトロールに歩くこともされていたとのことです。中村義明さんには以前、『熊野より一八年目の山暮し』をウータンに寄稿していただきました。地域に腰を据えた取り組みを行ってこられたのに、本当に残念です。心からご冥福をお祈りいたします。

色々な方の訃報に接すると、自分は十分生きているだろうかと振りかえってしまいます。

- * 事故後、中村さんのことが「せ方版」で紹介されました。

水平線
2011.9.16
今回の台風の雨は尋常ではなかった。表現は悪いかもしれないが、まさに狂ったように熊野で生まれ育ち、豪雨には慣れているつもりだったが、今回の雨は「熊



▲ あり日の中村義明さん

野が壊れてしまっ」と思った▼台風12号の犠牲者の中に何度か取材させてもらった新宮市熊野川町篠尾(ささび)の中村義明さん(62)の名があった。台風で壊れた水道管の修理中、誤って篠尾川に転落し、流されてしまったという▼中村さんはIターン。なかなか地元

に溶け込めず、早々に引越したりする人も多い中、区長を任されるほど信頼されていた▼ささびオープンサロンを開き、地元伝統のコンニャク、ハチミツ、アユ、もち、野菜などを販売。地元の人以外はなかなか足を運ばない行き止まりの地区に外から大勢の人を呼び込んだ▼「イベントを開くことで篠尾の自然や人情に触れていただき、定住者が増えてくれれば。コンニャク生産で雇用の場を作り、若い人たちに住んでももらえるようになれば」と夢を語っていた▼62歳とはいってもこの集落では若者。「先輩たちのためにも何としても水を確保しなければ」と使命感を強く持つて作業に取り組んでいたことだろつと想像する。「ご冥福をお祈り申し上げます。」

(瀬谷 巨)

アマゾン アトムが守る

ブラジルの漫画家“共作”来月出版



マウリシオ・デソウザ氏

手塚氏のファンだったデソウザ氏は1984年にブラジルを訪問した手塚氏と親交を深め、「平和を求め、冒険映画と一緒に作ろう」と約束。89年にデソウザ氏が日本を訪れると、末期がんで入院中だった手塚氏は病院を抜け出してホテ

手塚氏と28年前約束

ブラジルの漫画の巨匠マウリシオ・デソウザ氏(76)が、生前の手塚治虫氏と約束していた共同プロジェクトを、手塚氏の死後23年を経て実現させた。鉄腕アトムやロボンの騎士が、デソウザ氏のキャラクターと共に、アマゾンで森林を伐採する密輸組織と闘う冒険漫画が、2月に出版される。

「真剣、責任感じる」

ルに会いにきてくれた。映画の話題になると生気を取り戻し、数時間話し続けたという。数週間後、手塚氏が亡くなったことを知ったデソウザ氏は、手塚氏のキャラクターを自分の漫画「モニカと仲間たち」に取り入れる形で約束を実現出来ないかと考えた。手塚プロダクションが海外の漫画家に手塚作品のキャラクター使用を認めたのは初めてという。

デソウザ氏のもとで働くスタッフの多くは日系人。デソウザ氏は「手塚氏の漫画で日本語を学んだ人ばかり。手塚氏のスタイルは十分に知っている」。2月末と3月末にブラジルで発売される漫画は2冊で計240頁。デソウザ氏は「偉大な友人との約束を果たす大きな責任を感じる。『漫画の神様』との約束だから、真剣だ」と話す。(サンパウロ＝平山典理)

手塚治虫氏とマウリシオ・デソウザ氏のキャラクターが勢ぞろい。力を合わせてアマゾンの森林伐採と闘うデソウザ氏提供



2011年度決算

単位:円

収入		支出	
繰越金	1,055,577	会報製作費	213,150
会費	212,000	事務所家賃	144,000
カンパ	357,560	送料	78,710
物品販売	3,200	他団体への協賛金	30,000
講師派遣謝礼	90,915	海外ゲスト接待費	10,895
地球環境基金(2010年12月~2011年3月)	784,000	エコツアー準備等補助	150,000
地球環境基金(2011年4月~2011年11月)	1,979,000	交通費	26,915
計	4,482,252	事務費	4,486
		地球環境基金(2010年度分残金)	784,000
		地球環境基金(2011年11月まで)	1,979,000
		次年度へ繰越金	1,061,096
		計	4,482,252

森の救援基金

収入		支出	
前年度繰越金	889,132	植林支援金	20,000
カンパ	10,000	次年度へ繰越金	879,132
計	899,132	計	899,132

2012年度予算

収入		支出	
繰越金	1,061,096	会報製作費	200,000
会費	280,000	事務所家賃	144,000
カンパ	250,000	送料	70,000
物品販売	10,000	他団体への協賛金他	20,000
地球環境基金(2011年12月~2012年3月)	1,521,000	会場費	10,000
講師派遣謝礼	50,000	地球環境基金(2011年度分残金)	1,521,000
計	3,172,096	海外調査等補助	200,000
		事務費	5,000
		次年度繰越	1,002,096
		計	3,172,096

森の救援基金

収入		支出	
前年度繰越金	879,132	植林支援金	40,000
カンパ	5,000	次年度へ繰越金	844,132
計	884,132	計	884,132

[会計: 井下 様子]

HUTAN ACTION SCHEDULE

『リオ+20会議の報告と20年前・20年後の アマゾンから』

〔日時〕7月21日(土) Pm3:00~5:00 [参加費] 資料代700円

〔場所〕梅田の聖パウロ教会大会議室(南西NGO協議会1F)

〔主催〕ウータン森と生活を考える会, 地球村

〔協賛〕南西NGO協議会

〔報告〕石崎(ウータン), 滝, 高崎(地球村) 他

〔問い合わせ〕西岡 072-252-0505, 南西NGO協議会 06-6635-3222

*先日、「ミンダナオに図書館をつくる」という講演を聴きました。

単なる図書館でなく、教育・生活支援、内戦難民支援、を若者たちと共に行っていました。宗教のちがいで永年敵対しているの二つの村が、学校建設で協力し和解したり、戦や水害の被災者の支援などなど現地の人と協力しての活動はスゴい、と目をみはりました。助け合う貧しい子どもたちの笑顔も、

が、「洪水の原因は、かつて日本が森林を皆伐したためです」という言葉はショックでした。

ウータンの活動は、日本の皆伐によるフィリピンの禿山にショックを受けたことから始まったそうです。もう「過去の話」という気がしていました。

が、今も人々の家を押し流し、子どもたちの暮らしを奪う原因となっているのです

。講演者の松本さんは「植林も考えているが、どう展開すればいいかわからない」と言っておられました。

今すぐは無理でも、ウータンとして何かできれば、と思います。(拵下)



ウータン・森と生活を考える会

〔OFFICE〕〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36

サクラビル新館308

「関西市民連合」気付

Tel.06-6372-1561

<http://www.hutang.jimdo.com>

〔一部〕300円 [年会費]4000円

〔郵便振替〕00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。